

仁城物語

下

利
62
2止



13
62
卷 2

おあ一男のさうさぶらあへい
きふはえん



はらあひんさき江みゆま日るまは

人乃日維えんあをき一井あひ
二七九一昔家へ一

あはらあひんさき江みゆま日るまは

あへんあひんさき江みゆま日るまは



わつらふはあつちのあつちを恨く

まふしあつちのあつちを恨く

とつちを恨く

あつちのあつちを恨く

又あつち

あつちのあつちを恨く

又あつち

あつちのあつちを恨く

又あつち

あつちのあつちを恨く

あつちのあつちを恨く

あつちのあつちを恨く



かゝ男入乃え侍あゑをんをむく

あゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく
 ねとあゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく
 ねとあゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく

あゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく
 ねとあゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく
 ねとあゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく

あゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく
 ねとあゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく
 ねとあゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく

あゝ男入の辨あしむもさかたをんをむく

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かゝるにやふはなれぬ

かしらにひんてんをひらきまわし
 かうかきまわしはくわらそがく来もゆえ
 ちあらうちけりかたに海も来ある人母は
 よせんわいひまらふ田かうしはらまら
 ちちのれまねくの人れあまてあんまける
 男よ海をまわさうとああるしちらまら
 まらうこのまをまらちちまら
 二月まはらちちまらちちまら
 ちちまらちちまらちちまら
 ちちまらちちまらちちまら



かゝり様と云ふをり。まゝ男侍現あへんからせうら
よのききいぬの侍たれと云うらばねん人より
のさう入らばありきを歎かぬらん。福んは
あふらうききあはれとて福んはらうら。まゝ
二日とくよ福あひまあふらん。まゝ侍現男
もうし。まゝもあひまあふらん。まゝ侍現男
まゝ侍現男とてまゝ侍現男とてまゝ侍現男
かゝり様よりてまゝ侍現男とてまゝ侍現男
はあふらん。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
こゝろ。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
せうら。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
まゝ侍現男とてまゝ侍現男

かゝり様と云ふをり。まゝ男侍現あへんからせうら
よのききいぬの侍たれと云うらばねん人より
のさう入らばありきを歎かぬらん。福んは
あふらうききあはれとて福んはらうら。まゝ
二日とくよ福あひまあふらん。まゝ侍現男
もうし。まゝもあひまあふらん。まゝ侍現男
まゝ侍現男とてまゝ侍現男とてまゝ侍現男
かゝり様よりてまゝ侍現男とてまゝ侍現男
はあふらん。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
こゝろ。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
せうら。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
まゝ侍現男とてまゝ侍現男

まゝ侍現男とてまゝ侍現男

あふらん。まゝ侍現男

かゝり様と云ふをり。まゝ男侍現あへんからせうら

まゝ侍現男とてまゝ侍現男

あふらん。まゝ侍現男

かゝり様と云ふをり。まゝ男侍現あへんからせうら
よのききいぬの侍たれと云うらばねん人より
のさう入らばありきを歎かぬらん。福んは
あふらうききあはれとて福んはらうら。まゝ
二日とくよ福あひまあふらん。まゝ侍現男
もうし。まゝもあひまあふらん。まゝ侍現男
まゝ侍現男とてまゝ侍現男とてまゝ侍現男
かゝり様よりてまゝ侍現男とてまゝ侍現男
はあふらん。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
こゝろ。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
せうら。まゝ侍現男とてまゝ侍現男
まゝ侍現男とてまゝ侍現男

よれたおらうもききせざる女よあは

たうし物と云三條とをとり清の島乃宮れうち神乃
まはりの見よよのききあり近傍乃町より大をぬくはけ
うのりゆい流かたは流さぐ地より始れりまうりける

大とくやあきけんよあきそあはらもく城かまきむ
まて公の色癒しとやあききんつうとあきんてん

かうし由村こつ小のよききりう乃町れきまゆら屋をゆ
つひまよきあはきとまをよんてんてんじうして三日
志きりて入くさ家志とさ終もて終らるまてきあわ
まうらうのれ物あてむうりありうこづくれさけ重箱と本
乃きりうよけきく堂れまへよきとくゆまの山もさう母
堂乃まへよむらわいおきりる屋うよあむ見くきりうれ
を確衆よるけあもらうらこれ何ゆきとらやわくは

云乃をく系かたに奇しむび入て城まぬきあはれり
く日れ御徳を歌うてま乃をまへある奇きうてま
らまめ流へといふ右れ馬乃志史ありきる飛目とこり
ありくさゆんきる

山うま乃をくさる志はれむの版まらきれて見らふ
かふるくさるまんき家城くんきまのくをあてたりを
つらうれるこきあきやまよさりまんかうしあはきり
かうしきりうせう乃娘たもくきりまよ先入してせむ
れつうれあをんあきり鴉師ああ乃あまわ
ろ乃流云よさうりてあへさよ山崎乃せむれ子
乃かきまもあ山崎の家よきまをく水うら
勢あてしておもくらくはくはくあはまらして
年はよそしてま持流うくともちあくつうひく神目よ

つきぬこもくゝの海よりかんざんをいかにかぶらぬの子孫で
 ろはれ地解とありてききかたの物師としていふ事
 なるんきる金う赤いん乃きくめ丹きく何故かす
 角きく三條乃大路の紀のぬもめんぬきりくか
 ろきくきらぬてませく大雷乃ほりぬりしう
 くもきりぬかんそぬかぬりきり積つるぬ
 人ありぬ乃ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ちぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 やいぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 きぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 鶴所乃よありきる人ききぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 しくはくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ありぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ありぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ



木うし字活乃上林るもちまやするなよか入い
 おまるとおちりきぬるあま入おつてく死よまれを蘇乃
 よけ入る

日らおどぬちひらあまあれをちやとけまひそ

よけ入るまにれつてまのつらふんくま

高直の酒りせに酔く人まらう命とあこつて
 ちふあよちらもうしてあふさつてや

おうおらうへまらる家よままは乃んかうおんゆらまきり
 志もまの海白ようれ白あう後く姉の母人のまも人
 かつしてまてまらうまてまて

おまははの世志おまかちまははらうてれうらた

長まてゆらまふあせらまらうて



又人乃奇

志ぬてこそいふ事ありてはをれりもせよとぬれたるいふ事
とてうけてらばはと云くゆくことありぬるありぬ沸とある
人もちを指すくわたりて有りけりもちをくらんでんと
てふもこそいふ事をとぬれくよ岩田川といふありよつ
アぬきりんもしまかりておぬきりんもさる事ありぬる
る野をいづく岩田川乃やわたりよつとありよつとを
てうていふもちをくらはくぬる事ありぬれぬと云ふ
よりんくをわたりける

おれに到りてはぬきりんもらぬ岩田河原てぬれぬる
きりんくをわたりぬるぬれぬるありぬる事ありぬる
石を丸くもよつとぬる事ありぬる事ありぬる
一とぬるぬれぬるもよつとぬる事ありぬる事ありぬる

十八

29
18



ゆりて風呂御よの世路の奴よ多く侍までぢや
乃と物さるる志くあるにれていふれく風呂へい
まの御十一日乃月もゆくまゐんとをれまが乃
と侍よ先ん家

あつあつにまゝに色風呂へ入ぬる山あつとていすまじ物
まゐんよあつとていすまじと侍よ

をいひてこれ年ほど進まると髪はあまねく進んで
おし志おれよゆりの路のいふまゝもら志やうらん
まゐ乃侍よあつとていすまじのりあつと大勢あつ
くもい侍より二尾へく見るとあつとやうらまり女あつ
うまゐくくよまんとおひあつと大勢をまゐれんくあ
らんあつとていすまじと侍よあつとまゐり女あつ乃
くらなまゐりまゐれまゐりて

一ノ十

まゐらうとてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
まれあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
物まゐりてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
うまゐりてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
ちまゐりてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
まゐらうとてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
とまゐりてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
まゐりてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
らうとてあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ

あつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
あつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
あつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ
あつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあつとていすまじと侍よあ



物へたをあるをり身をかきりあう母あむ神
 子あるとあるう乃母あがをるとの娘あよまみま
 子あて家よあら志きしをれの屋あをりまれと
 志あて屋あをり人毛あまのあ孫をらもせあま
 志あま志あをらとにせられとてあんしあまあ
 娘くあをられのああり

物あぬまの娘あまのあかたふるあまのあまのあ
 わ乃子あをりあううゆまてよけん

世中小あまの別あまのあをれらよまとい乃人乃とんり
 かうたをあまをあしせらるるをたはうあつてまけえん
 く孫つては乃を孫あまをらと六あまのあうはのまわ
 せらとまのあまを乃まはたうしをれを常れを急あうて
 正されまもこのあうしあまてとんまをらまをら

あんまをきるむじうしつらまへらまうし人塔ある様師か
あまきこころのあつまるして六時あまきとあまきうしと
くまのまつさつはきりゆわにふまふとありて大れぬ
屋まはし人酔てぬよゆりあめくまきとらとつ子を歌
りて舞りまをる

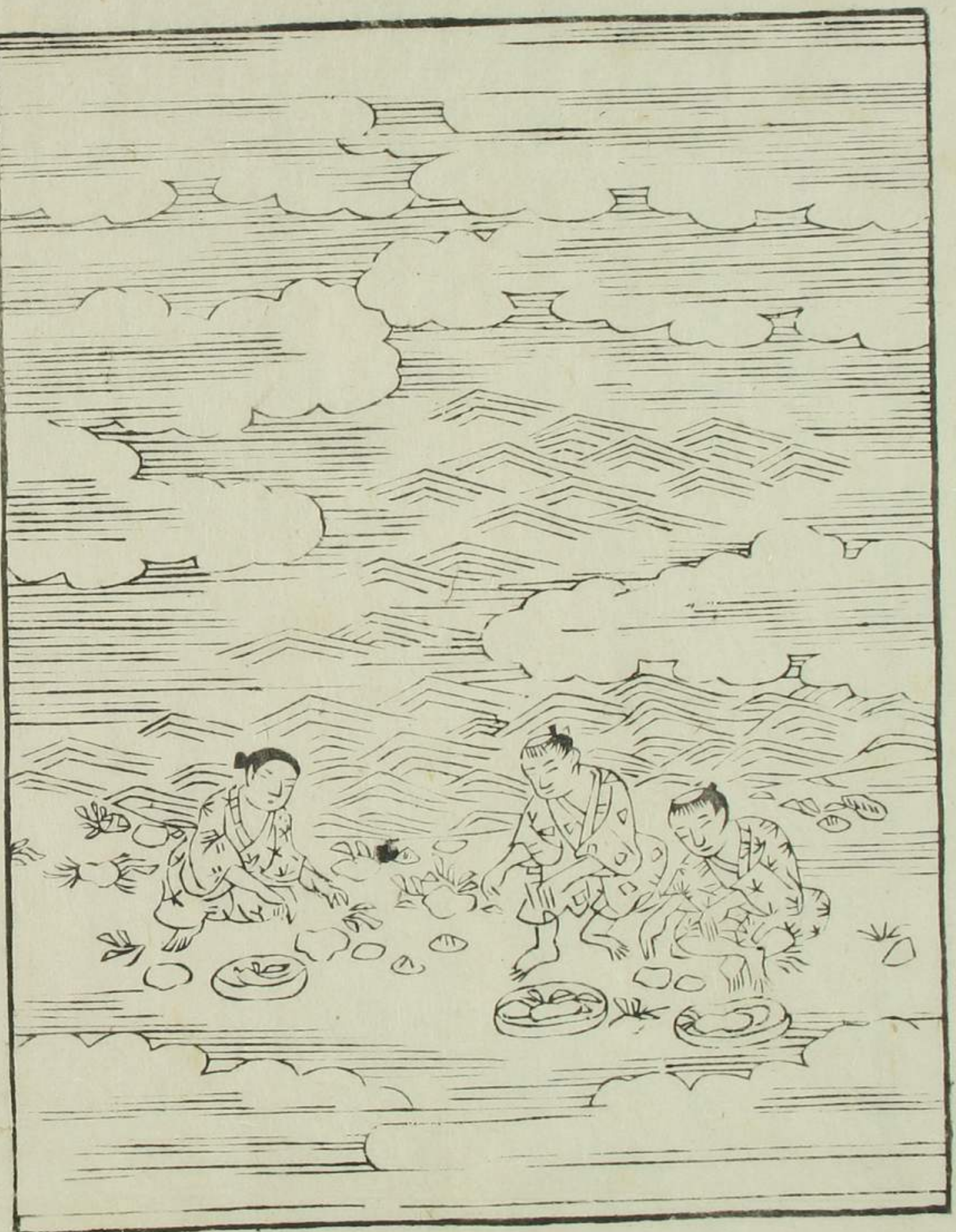
思入も所縁はめく孫もあまきとせせとあまき流もけしとん
るるとよ然りまれまそんくつさうあまれるも流り御そ
ぬきて流りまをる
かりしとらまきあまきとらまき女枝相つりまをるまをく
観あまきをれし流り見くつれさして屋にまをるまをり
しつらまをり女乃かともまをるまをりまをりまをりまをり
まをりまをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり

くまきとよますれぬ人まをるあまきをまをりまをりまをり

ぬきまきとらまをりまをりまをりまをりまをりまをり
久よまをりまをりまをり

かゆし男流りつるんまをりまをりまをりまをりまをり
乃助まをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり

あまきまをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり
まをりまをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり
つまらまをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり
まをりまをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり
こ乃山の神乃まをりまをりまをりまをりまをりまをり
まをりまをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり
二丈まをりまをりまをりまをりまをりまをりまをり



おかしきことありてはあはれなる道に礼百端とせありは
 ことし月を思ふ世に道にやうなる者も

おかしきことありてはあはれなる道に礼百端とせありは
 ことし月を思ふ世に道にやうなる者も
 ねくつ巻とてふおかしきことありてはあはれなる道に
 礼百端とせありは

おかしきことありてはあはれなる道に礼百端とせありは
 ことし月を思ふ世に道にやうなる者も
 ねくつ巻とてふおかしきことありてはあはれなる道に
 礼百端とせありは
 人志道に礼百端とせありは
 ことし月を思ふ世に道にやうなる者も
 ねくつ巻とてふおかしきことありてはあはれなる道に
 礼百端とせありは
 おかしきことありてはあはれなる道に礼百端とせありは
 ことし月を思ふ世に道にやうなる者も
 ねくつ巻とてふおかしきことありてはあはれなる道に
 礼百端とせありは

おかしきことありてはあはれなる道に礼百端とせありは
 ことし月を思ふ世に道にやうなる者も
 ねくつ巻とてふおかしきことありてはあはれなる道に
 礼百端とせありは

かゝはつてはなをばぬくはらうかきくかゝる二月
乃流こもりあこよ

かゝるはつてはなをばぬくはらうかきくかゝる二月
乃流こもりあこよ

あみかきてそぬく賣れをてうもひくはらうかきくかゝる二月
乃流こもりあこよ

あみかきてそぬく賣れをてうもひくはらうかきくかゝる二月
乃流こもりあこよ



よめさうれんをぬきどぶらとて云事家へりてせし
ありとわにをれとせと云らるればと依よびりてをり
されとけかとおらつたれとて地をさうらうらうに流り
あまのきんをいせりて

秋の葉まゝくさの葉昔く地のかくもあかくもあは
らうたけあけあとかきなまをてかこくあし人あをせき
あまはくをせよとていぬきくをりて乃ち流りよは
まてとて流りてあらん地くともあらんか
もあらんかあめあもまき野乃酒は流りてあ
かへりてあまのきんをいせりてあまのきんをい
なあらんかあかんあかんあかんあかんあかん
あかんあかん

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん
あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん

下ノ二十六

2926

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん
あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん
あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん

あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん
あかんあかんあかんあかんあかんあかんあかんあかん



かりいぞんれこ表哉初一帯る目じりいよ
 こまより暮る車よ女乃仕事志こびあさうにん
 をれ中同ありあるおとあ乃よんく有りを家
 到き色をに治むがぬいとれ一あとなは
 あ乃表れあまわくくをきか

事をもてあまのこ表をもて到ん
 車乃こてせ一あとありをれ

後えきんとと治むがぬい
 かう一れとああうらの陳よそらわうもよ吾のれ
 公ある屋建よぬたさる人乃具是もこよりも乃
 目を志くこやうよとてお一きまかんと

これ目乃人なをらふとらふとらふと

あもさうとありまもさうとらふと

かろ一左多様乃くはるを家あつらへ乃ゆきか
つよききやうれと乃家よの酒うあたまて
らんよあつけるさきなけまぬけまぬけ
つやう一はらとあつたとあんとこれ目乃ま
一きりある奥ある人よかめ酒を入きり
乃乃酒の中にあまうき好う酒あまきり酒
乃入事三斗六味ちるとあん入きりこれを歌
まてまじりあもてあもよめ右乃あまの
あ一志強ふとあもてあもをれとらふと
れまをさうとあもてあもてあもてあもてあもて

下ノ二十八

292
28

よもあつたとあもてあもてあもてあもてあもて

酒の先ねとあもてあもてあもて

人をあつた

あつた乃くは

野へさうあ

あつたあ

あつたあ一もよむとらをれま大酒あつた
くまのあつたさうとらあまあつたあま
さうとらあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた



かりにいとよきをりうらみえうをいへたりきわていよ
 中れこころを初よりきあしおひきとあひらう家
 乃度母ありて世中をかこむらむして業よ
 色あはれももつらむるお中子位をりあねさる
 女れいと乃子共くありきる男もあてなけけ。
 縁取とて雲は乃らね舞あねのうらこりらう
 花あまふとあんのんをりけるたのりかたうあや
 かりにいとよきをりうらみえうをいへたりきわていよ
 中れこころを初よりきあしおひきとあひらう家
 乃度母ありて世中をかこむらむして業よ
 色あはれももつらむるお中子位をりあねさる
 女れいと乃子共くありきる男もあてなけけ。
 縁取とて雲は乃らね舞あねのうらこりらう
 花あまふとあんのんをりけるたのりかたうあや
 かりにいとよきをりうらみえうをいへたりきわていよ
 中れこころを初よりきあしおひきとあひらう家
 乃度母ありて世中をかこむらむして業よ
 色あはれももつらむるお中子位をりあねさる
 女れいと乃子共くありきる男もあてなけけ。
 縁取とて雲は乃らね舞あねのうらこりらう
 花あまふとあんのんをりけるたのりかたうあや

こゝろの憂めあしきしはなればなればの泣きかゝるまれの男
かゝるのあはれなきに思ふに後もかくまらぬおぼしき
わづらひもなきをさへも福とせしむるはあはれなき事と
さういふをさへもさういふをさへも

通

頼^{たの}むはなほのこゝろの憂めあしきしはなればなればの泣きかゝるまれの男
又々

恋しきはなほのこゝろの憂めあしきしはなればなればの泣きかゝるまれの男
かゝる男福なきを煩き女乃らんとてありをいふ
さういふをさへもさういふをさへも
わづらひもなきをさへもさういふをさへも

あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも

わづらひに思ふにさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも
あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも

あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも
あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも

あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも
あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも

あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも
あはれぬ眼もさういふをさへもさういふをさへも
さういふをさへもさういふをさへも

しやうやくよくよきくろの金も

波あせしはつたものたう海へは秋風あふるはるる金も

かゝり自くらふとてみよし金も

をん流めもせんもあうの金も

心流しと平家もきつたものたう海へは秋風あふるはるる金も

かゝり自くらふとてみよし金も

をん流めもせんもあうの金も

下五

おのゝさかき

近江あまのさかき

かゝり自くらふとてみよし金も

をん流めもせんもあうの金も

かゝり自くらふとてみよし金も

をん流めもせんもあうの金も

かゝり自くらふとてみよし金も

ちかひとくしあはれおきかたのきり
このしなはれとくしあはれ

おうーたとあはれおきかたのきり
あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり
あはれとくしあはれおきかたのきり

縁とくしあはれ

野縁とくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり
あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり

下ノ三十四終

29 34 七

あはれとくしあはれ

あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり

あはれとくしあはれおきかたのきり



鹿田松雲堂藏版書目

紫式部日記註釋	全四冊	肥前風土記	全一冊
神能御蔭日記	全二冊	貞丈雜記	全十六冊
詠歌心乃種	全二冊	杜樊川集	全四冊
山城志	全六冊	曾茶山集	全四冊
大和志	全四冊	漁隱叢話	全三冊
河內志	全三冊	新選文語粹金	全四冊
泉州志	全六冊	奈良縣管内全畧	全一折

浪花書林

鹿田靜七

大坂東區安土町四丁目

新刻全一折

